

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9	ハワイ東西センター連携事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ア			
担当部課名	企画部 科学技術振興課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	アジア・太平洋地域の共通課題に対する技術協力等の推進 Ⅲ-7			
事業内容	グローバル社会や多様化・複雑化する社会ニーズに対応できる人材を育成するとともに、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、県内の社会人等をハワイ東西センターへ派遣する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,385	—	4,385	—	4,385	
		(b) 予算現額	4,385	—	4,385	—	4,385	
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	—	0	
		(d) 前年度繰越額	0	—	0	—	0	
		A. 計 (b+d)	4,385	—	4,385	—	4,385	
	B. 執行済額		4,328	—	4,308	—	4,235	
	うち交付金充当額		3,462	—	3,446	—	3,388	
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0	
	執行率 (%) (B/A)		98.7%	—	98.2%	—	96.6%	
予算の状況の説明		・執行率は96.6%であり、概ね計画的に執行できた。 ・この事業について、H29までは別の沖縄振興特別推進交付金事業の細事業として実施しており、今回、記載したH29の予算額等は該当する細事業の実績。						
活動目標(指標)及び達成状況	H31活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	県内の社会人等を2名、ハワイ東西センター及びハワイ大学大学院へ派遣する		目標	—	—	2名派遣	2名派遣	
			実績	—	—	3名派遣	3名派遣	
	【H29以前の活動目標】 社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣		目標	2名派遣	2名派遣	—	—	
			実績	2名派遣	2名派遣	—	—	
達成状況説明	・R1年度は、小淵東西センター奨学金による派遣者2名のほか、アジア・太平洋リーダーシッププログラムによる派遣者1名の計3名の派遣を行い、目標を達成することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H26年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	ハワイ東西センターへの派遣 延65名(うち延31名をハワイ大大学院へ派遣)		目標	—	—	延64名派遣(うちハワイ大学大学院30名)	延65名派遣(うちハワイ大学大学院31名)	—
			実績	—	延62名派遣(うちハワイ大学大学院29名)	延64名派遣(うちハワイ大学大学院30名)	延66名派遣(うちハワイ大学大学院31名)	—
	【H29以前の成果目標】 ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合 85%以上		目標	—	50%以上	—	—	
			実績	—	100%	—	—	
	【R2成果目標】 ハワイ東西センターへの派遣 延69名(うち延33名をハワイ大大学院へ派遣)		目標				延69名派遣(うちハワイ大学大学院33名)	
			進捗状況説明	・ハワイ東西センターへ延65名(うちハワイ大学大学院へ延31名)の派遣を行い、成果目標を達成することができた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①小渕沖縄教育研究プログラムを継続的に実施していくため、ハワイ東西センターと協力し、相互で留学に係る経費を確保するなどの信頼関係を構築していくことが重要である。 ②小渕沖縄教育研究プログラムに参加するためには、研究に関する専門的な知識と高い語学能力(英検1級程度)が求められている。	①グローバル社会や多様化・複雑化する社会ニーズに対応出来るさらなる人材の育成に向け、支援する留学生の増員とその経費等についてハワイ東西センターと調整を行った。今後も引き続き留学に係る経費について予算の確保に努め、人的ネットワークの構築及び国際的な視野を持った人材の育成についてハワイ東西センターと連携していく必要がある。 ②専門的な研究に関する知識と語学能力を兼ね備えた人材の確保に向けて、県内の大学や企業等と連携し、県内大学等の留学実態を分析した上で、同プログラムの広報等に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
①留学に係る経費について、令和2年度から支援する留学生数の拡充のため増額を行う。今後も継続した経費の確保及び国際的な視野を持った人材の育成等についてハワイ東西センターと適宜協議を行い、連携に努める。 ②「小渕沖縄教育研究プログラム」について、県内大学等の留学実態を分析した上で、大学生や社会人を対象とした説明会の開催や企業訪問等、同プログラム内容の効果的な周知広報を強化し、語学能力を兼ね備えた研究人材の確保に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
4,235	4,235	3,388	847	0	0	0
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 沖縄県 交付対象 事業費 4,235千円 </div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 委託料 1,735千円 </div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> エキスティブエピソード株式会社 </div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> ハワイ東西センター </div> <div style="margin-left: 10px;"> [令和元年度ハワイ東西センター連携事業委託業務] </div> </div>						
資金の流 れ、費 用 の 点 検 評 価	評価	点検項目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託業者は、公募によるプロポーザル形式にて提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。 ○費用、用途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	55	沖縄平和啓発プロモーション事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ウ			
担当部課名	子ども生活福祉部女性力・平和推進課	事業実施(予定)年度	R1 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開 Ⅲ-7		
事業内容	これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、平和を希求する「沖縄のこころ」を次世代に継承するため、県内外でプロモーションを行うとともに、アジア諸国の若者が自国の歴史を学び、沖縄で県内の若者と一緒に沖縄の歴史と文化、沖縄戦の実相と教訓を共に学ぶ。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和4年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	—	—	—	—	73,708
		(b)予算現額	—	—	—	—	73,708
		(c)増減額(b-a)	—	—	—	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	—	—	—	—	73,708
	B.執行済額		—	—	—	—	68,550
	うち交付金充当額		—	—	—	—	54,840
	C.次年度繰越額		—	—	—	—	0
	執行率(%) (B/A)		—	—	—	—	93.0%
予算の状況の説明		・沖縄戦の体験等により培われた平和を希求する「沖縄のこころ」を広く発信し、次の世代に継承することを目的として、令和元年度から新規事業として、発信・交流・継承に要する経費として、旅費及び委託料を計上した。 ・執行率は93%であり、不用の理由は主に新型コロナウイルス感染拡大防止のためワークショップを中止したことや、委託業務の執行残が生じたことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ワークショップ開催10回 (東京・大阪・福岡各1回・県内7回)	目標	—	—	—	10回(県外3回、県内7回)	
		実績	—	—	—	7回(県外2回、県内5回)	
	平和啓発シンポジウム開催 (県内1回、東京1回)	目標	—	—	—	2回(県外1回、県内1回)	
		実績	—	—	—	2回(県外1回、県内1回)	
	アジア諸国の若者との共同学習 (参加5カ国、12日間実施)	目標	—	—	—	5カ国、12日間	
		実績	—	—	—	5カ国、12日間	
	アジア若者平和シンポジウムの開催(1回)	目標	—	—	—	1回	
		実績	—	—	—	1回	
達成状況説明	・平和啓発シンポジウム、アジア諸国の若者との共同学習及びアジア若者平和シンポジウムは、予定どおり開催し、多くの市民に平和について考える機会を提供することができ、目標値を達成した。 ・ワークショップについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したこと等により、予定していた回数に及ばず、目標値を達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)
	・シンポジウムアンケートで「平和への理解がより深まった」が70%以上。	目標	—	—	—	70%	—
		実績	—	—	—	87%	—
	・ワークショップアンケートで「平和への理解がより深まった」が70%以上。	目標	—	—	—	70%	—
		実績	—	—	—	91%	—
	進捗状況説明	・シンポジウムにおいて、平和への理解が深まったか(70%以上)をアンケートで検証し、理解が深まったと回答した者が87%となり、目標を達成した。 ・ワークショップにおいて、平和への理解が深まったか(70%以上)をアンケートで検証し、理解が深まったと回答した者が91%となり、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>① 沖縄戦の悲惨さや平和の尊さは現在の事業内容で十分に伝えることができていると思料するが、沖縄戦の経験からどのように現代に繋がるのか、今なぜ平穏な日々を送ることができるのかという視点で平和とは何かを考えてもらう工夫が必要である。</p> <p>② 語り部(びーすふるメッセンジャー)、ワークショップ希望校の確保やシンポジウムの集客が課題といえる。</p>	<p>① 戦中だけにスポットを当てるのではなく、戦後復興の様子を通して、現代の平和について考える機会を提供する必要がある。</p> <p>② 初年度の取組内容や実績等を広く知らしめることなど、内容に興味を持っていただく工夫を凝らす必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>① 戦争体験者の戦後復興に係る証言を収録し、現代の沖縄を考える平和学習のツールを整備する。</p> <p>② 初代びーすふるメッセンジャーを活用し、初年度の取組内容や実績等を広くアピールする。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
68,550	68,550	54,840	13,710	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象事業費 68,550千円] --> B[旅費 1,304千円] A --> C[委託料 67,246千円] C --> D["(株)サン・エージェンシー 45,283千円"] C --> E["(特非)沖縄平和協力センター 21,963千円"] </pre> <p>【普通旅費】シンポジウム・ワークショップ・成果巡回展に係る職員旅費 【費用弁償】シンポジウムにおける講師・パネリストの旅費</p> <p>御万人びーすふるアクション(シンポジウム、ワークショップ、成果発表巡回展、メッセンジャー認定、各種メディア広告)事業にかかる委託業務</p> <p>アジア諸国の若者との共同合宿(交流・学習)、成果発表会実施事業にかかる委託業務</p>						

資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式により体制、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	